

新体制下で1年 その成果を総括

平成22年度の日本医家芸術クラブ定時総会は、6月20日(日)午後千代田区銀座「Sun mi高松」で行われました。司会は再生委員の安井廣迪先生。また太田怜委員長が乾杯の発声と挨拶、さうそく自己紹介を兼ねて各部の昨年度の活動と今年度の方針が報告されました(別項参照)。このほか、クラブ全体の会計報告が再生委員の津谷喜一郎先生からなされた承されました。以下議事のあらましです。

再生委員を2人増の5人に

財政基盤強化にご寄付のお願い

各部の副部長
もう1人増員を

各部報告では、昨年度の催しが成功裡に終わったこと、本年度の見通し、さら

って、より活動がスムーズになるのではないかと、体制強化が求められました。これは部の実情によって急には実現できないまでも、その方向に努力するよう合

意がみられました。

また、年会費は8000円で従来より

1万円軽減しました。余裕のある会員各位にご寄付を呼びかけます。すでにある

また各部とも部長・副部長体制になって

会員から、自分が所属する部を指定できるのか、クラブ全体に限るのか、問合せがありました。このような場合、寄付の宛先を所属部にできます。

さらに重要な議題としては「日本医家芸術会総会・ソシアルイベント」への参加問題があります。白矢勝一再生委員代表から、経過と課題について説明がありました。別項で詳しく説明しています。併せて、こゝ読ください。

各部報告

泰明小前の新会場で開催

美術部

白矢 勝一

40人からの油絵、墨彩、素描、工芸の62点作品を趣旨の異なる地下、1階、2階に展示。賛否両論のご意見を頂きました。賛成意見は、通行人に見えるウィンドウがある。独特の雰囲気よかった。最低出品料が安価になったなど。反対意

見は、期間が短い。地下が暗く、手摺がなく危険で不便。場所が分かりにくいなど。今後の会開催への意見などなんなりと事務局へお寄せ下さい。

懇親会は、伝統ある全国区の美術部らしく広島から江川先生、山形から海野先生とご家族、栃木から柴崎先生にもお越し頂き、安彦副部長、秋葉ご夫妻、飯田収、須賀、唐澤、鈴木博の諸先生にご参加頂き、会場内で膝を突き合わせて行いました。

年齢や作品のタイプは異なってもやはり趣味を同じくする方と直接お話をするのは、とても楽しいものです。本年の秋の58回はもちろん、医学会総会内で行う来年春の59回での懇親会は書道、写真部、また閲覧の会員の方々と合同で予定しております。

「多忙な時期かと存じますが是非ご参加下さい。楽しいひと時を一緒したいと思います。」

新宿の新会場で11月に開催

写真部 竹腰昌明

京セラのカメラ部門からの撤退により京セラコンタックス・サロンが使用できなくなり、新宿御苑のHCLフォトギャラリー（会場費無料）で開催しました。

会場の大きさから作品は半切、一段掛けでした。しかし、初参加の大ベテラン佐々木正先生、女性（木村典子）、山崎律子、佐久間文字各先生、若手（白矢泰三、白矢智晴先生）5人や再登場の音藤三朗先生のご出品により例年とは異なりながらよい写真展を開催できました。

懇親会はランチタイムにご夫妻での参加もお願いしたところ、大武秋生先生、本村先生、矢崎先生ご夫妻に、また部の連携として美術部の安田ご夫妻、洋楽部の萩野先生にもご出席頂きました。今年はプロジェクトでの作品投影をしながらの自己紹介で、作品と相俟っていつもより先生方のお人柄が理解し合えたようでした。遠路から休日にご参加頂き有難

うございました。

本年からは千代田区半蔵門の写真専門のカメラ博物館で毎年行えるようになりました。また来春は医学会総会にも希望者は出品します。是非皆様ご来場下さい。

若手を加え本年も賑やかに

邦楽部 高橋妙子

21年度は、二越劇場で恒例の「邦楽祭」を11月23日に開きました。55回目です。美術部に次ぐ歴史があります。出演者はきょうお見えの秋葉則子先生が新しく参加されたほか、計14番組でした。

今年度は15番組になります。このうち初登場は秋葉先生のご紹介で吉野則子先生です。演目の内訳は長唄6、清元1、舞踊3、小唄2、仕舞3です。

今後の課題の一つは歌舞伎座建て替えによる劇場難で、来年はお休みします。しかし、皆さまの熱意で、再来年はこれまで通り11月23日・勤労感謝の日に再開します。すでに会場使用の仮契約を

しました。

もう一つの課題は、やはり高齢化です。今回の出演者の年齢は6月20日現在で81歳以上が7人、71歳、50歳代7人となっています。ですから80歳代前半の方々の頑張りや若手の新参加を積極的に呼びかけたいと思います。

イベント費用の個人負担は他部と比べて高額です。一応、昨年度は開催に要した諸費用と医家芸術誌掲載と真のカラー負担なども納め、その上で概算7万3000円を今年度に繰り越しました。(この項)

音友ホールで本年も開催へ

音楽部 松木耀子

21年度は音楽部恒例の「ドクターズ・ファミリーコンサート」を、10月11日の日曜日、神楽坂の音楽の友ホールで開催しました。独唱や合唱、合奏など12番組、出演者は会員が15人、ピアノ伴奏な

どの共演者が12人、合わせて27人が参加しました。

音楽部の課題は、会場探しとオーケストラの維持です。銀座ヤマハホールの改装が始まってから、コンサート会場は日本医師会、津田ホール、音楽の友と3年連続して会場が変わりました。津田ホールまでは医家芸術クラブのオーケストラ演奏が出来たのですが、会員数の減少に伴い、会場費負担が大きくなるため、昨年度の津田ホールを最後にオーケストラはやむなく中止になりました。今後の復活も現状では大変困難ではないかと思われず。

今年度のコンサートも音楽の友ホールで10月17日(日)に開催します。ホールは音響、客席の広さとも良好ですし、幸い継続使用が可能な上、会場費も若干割引になります。欲を言えば、控室が小さいことでしょうか。会員それぞれが独立した出演ですので、もう少し余裕が欲しいですね。また地下鉄神楽坂駅には工

レバーターなどなく、会場人口も階段が急で、年配者には辛いところでしょう。

ことしの出場希望者数は、2グループと独唱、独奏の13人で、あと3、4人欲しい。これからお誘いします。

なお、今年度ですが、5月に「シラヤアトスペース」で行われた絵画や音楽を中心にした芸術祭に、私と小川昭子先生ほか数人でコーラスしました。また秋野仁志先生らが、軽音楽部を立ち上げ、実力を披露されました。今後、提携して行けたらと思います。

ちなみに津田ホールの会場費は、約58万円、音楽の友は31万円です。練習会場の借用などを考慮しますと、オーケストラを実施するには30万円ほど余計にかかります。この分は他の出演者の出演料でカバーしていました。昨年の決算は赤字、6人から各2万円のご寄付をいただき7千円ほど繰り越しました。(この項)

困難な中で文特号維持に尽す

文芸部・山田 遼

文芸特集号は例年11月発行が続いて
いましたが、昨年度は他のイベントとの
兼ね合いで、12月発行になりました。執
筆者19人、作品22編、総ページ数20
4頁。内訳は創作5、随筆・評論10、詩
歌（短歌・川柳含む）6です。

頁数は長編執筆者が多かったため、そ
れなりの分量を確保できましたが、執筆
者数は厳しい状態です。ここ数年では
平成17年度 28人 29編 240頁
18年度 18人 19編 148頁
19年度 19人 22編 198頁

となっております。通常号の執筆者と文芸
特集号とでは、数人を除いて分れていま
す。短編でもいいですから、積極的に参
加して下さいる事を望みます。

頁負担金はかつて1頁7,000、
5,000円もしたときがあり、頁数の
多い執筆者にとってはきつい金額。今回
は1頁2,500円と大幅に減額しまし

た。製造コストのダウンで可能となりま
した。

独立採算制なので、毎回、執筆者の数と
頁数が安定しないと、運営は困難に陥り
ます。幸いにして、昨年度は冬季号への
年賀広告費40,000円を負担したう
えで、次年度への繰越金114,083
円を計上できました。ただ発行部数を千
りギリに制限したので余裕がなく、追加
注文に心じられなかったのが反省点。今
年度は11月発行。()

機関誌発行は年間4回と文特号

春夏秋冬の各四季ごと、文芸特集号
の計5回を今年度も維持します。本号を
含めずで2回終了しました。イベント
の関係で来年1月末発行の冬季号は、頁
数が増え、その見返りに秋季号は少なめ
になるのではないのでしょうか。財政上に
占める負担が大きいため、投稿規定の厳
守に努めます。ご協力ください。



(前列⑤から敬称略) 大武秋筈、小川昭子、松木耀子、太田伶、秋葉敏子、高橋少子

(中列) 竹腰昌明、小川再治、秋葉琢磨、大出篤、小口英世、鈴木啓之 (上列) 安井麗迪、白矢勝一、
初芝澄雄、林宏匡 (右側枠内は所用で退席した ①山田新太郎 ②津谷喜一郎 ③佐久間文子

です。まず医芸唱歌壇ですが、今まで通り毎回5首掲載を続けて行く。そして時々歌会を開催して部員の出会いの場を多くすることが、必要ではないかと存じます。とりあえず来年早々にでも新年歌会を企画したいと思えます。

投句仲間との交流を図りたい

俳句部 秋葉 琢磨

医芸俳壇の常連が、どんな方なのか知りたいですね。5、6年前に福神規子さんのご努力で吟行会がありました。せめて会員多数が総会に出席したり、クラブの新年会、書道展や美術展で交流することはいかがでしょうか。投稿者の顔と真も欲しいと思えます。

ご希望があれば、開催の手配など準備をお手伝いします。ご用命ください。投稿者の顔と真は、前にもある方から指摘されたのですが、「常連が多くその都度はおえって、"うんぬん"の



では、実現していません。

出品26人のうち会員は15人

書道部 小口 英世

事務局縮小にともない、白紙からのスタートで苦労しました。幸いベテランの先生方の素晴らしい作品が寄せられて、若い我々に力強い励ましをいただきました。出題者は会員が15人、賛助会員が11人、合わせて26人でした。

今年は少し減るようです。昨年秋季号に作品が紹介されましたが、残念ながらいくつか誤りがあり、影響したのではと思います。

このほか、部としての報告とは別に全員が自己紹介、手薄な事務局を心配する声（大武秋策、小川昭子先生）や、催し会場への希望（高橋妙子先生）などが寄せられました。会は午後3時半に閉会。